

図 7 機関 e の試験液調製方法

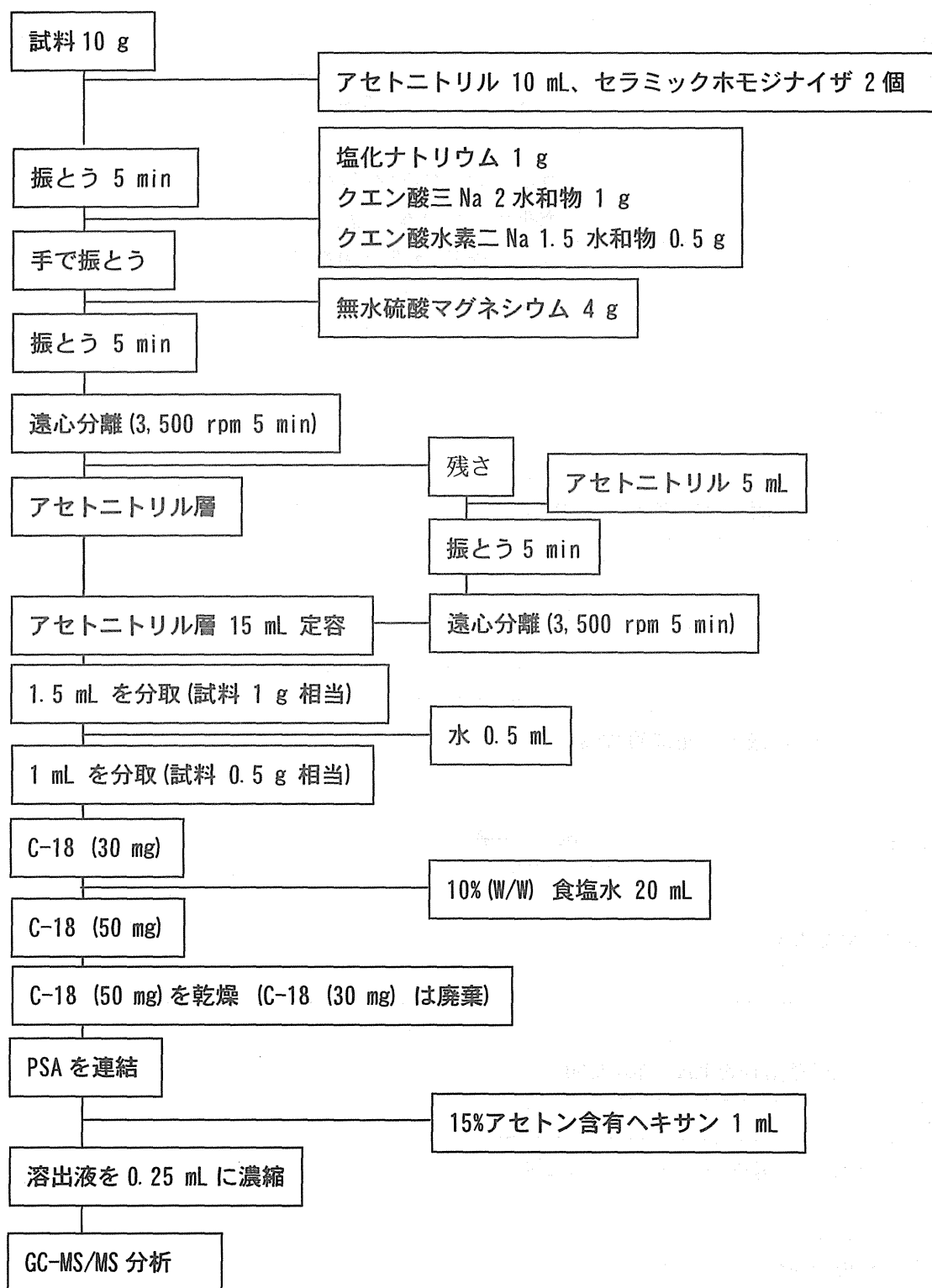


図 8 機関 f の試験液調製方法

研究機関名 ( XXXX 研究所 )	
確認事項	<p>盲検の検査において、試験品から50ppbの濃度がスクリーニングで検出され、定量が必要な場合、あるいは、外部検査管理等で50ppbの定量が必要となった場合、<b>盲検調査で報告された濃度の試験液を再現されますか？</b></p> <p>再現される場合、希釈後の試験液濃度をご記入ください</p> <p>その他のGCの注入量をご記入ください</p>
	<p>1 g/mL</p> <p>1 μL</p>
各機関での溶液調製濃度(事前調査結果より)	各機関での溶液調製濃度(最終案)
試験液濃度 2 g/mL GC注入量 1 μL 1) ブランク試験液、VFJ試験液 最終試験液濃度 2 g/mL g/mLの試験液を調製 2) 添加用標準溶液 400 ppb溶液を調製 → 100 ppb 3) 検量線 90 ppb → 20 ppb 160 ppb → 40 ppb 400 ppb → 100 ppb 600 ppb → 150 ppb 800 ppb → 200 ppb の5点検量線を調製 4) リン酸トリアセチル溶液(IS) 400 ppb溶液を調製 → 100 ppb 5) PEG溶液 0.2 %溶液を調製 → 500 ng/注入	試験液濃度 1 g/mL GC注入量 1 μL 1) ブランク試験液、VFJ試験液 最終試験液濃度 1 g/mL g/mLの試験液を調製 2) 添加用標準溶液 200 ppb溶液を調製 → 50 ppb 3) 検量線 40 ppb → 10 ppb 80 ppb → 20 ppb 200 ppb → 50 ppb 300 ppb → 75 ppb 400 ppb → 100 ppb の5点検量線を調製 4) リン酸トリアセチル溶液(IS) 200 ppb溶液を調製 → 50 ppb 5) PEG溶液 0.2 %溶液を調製 → 500 ng/注入

図 9 各協力機関に配布した計算シート

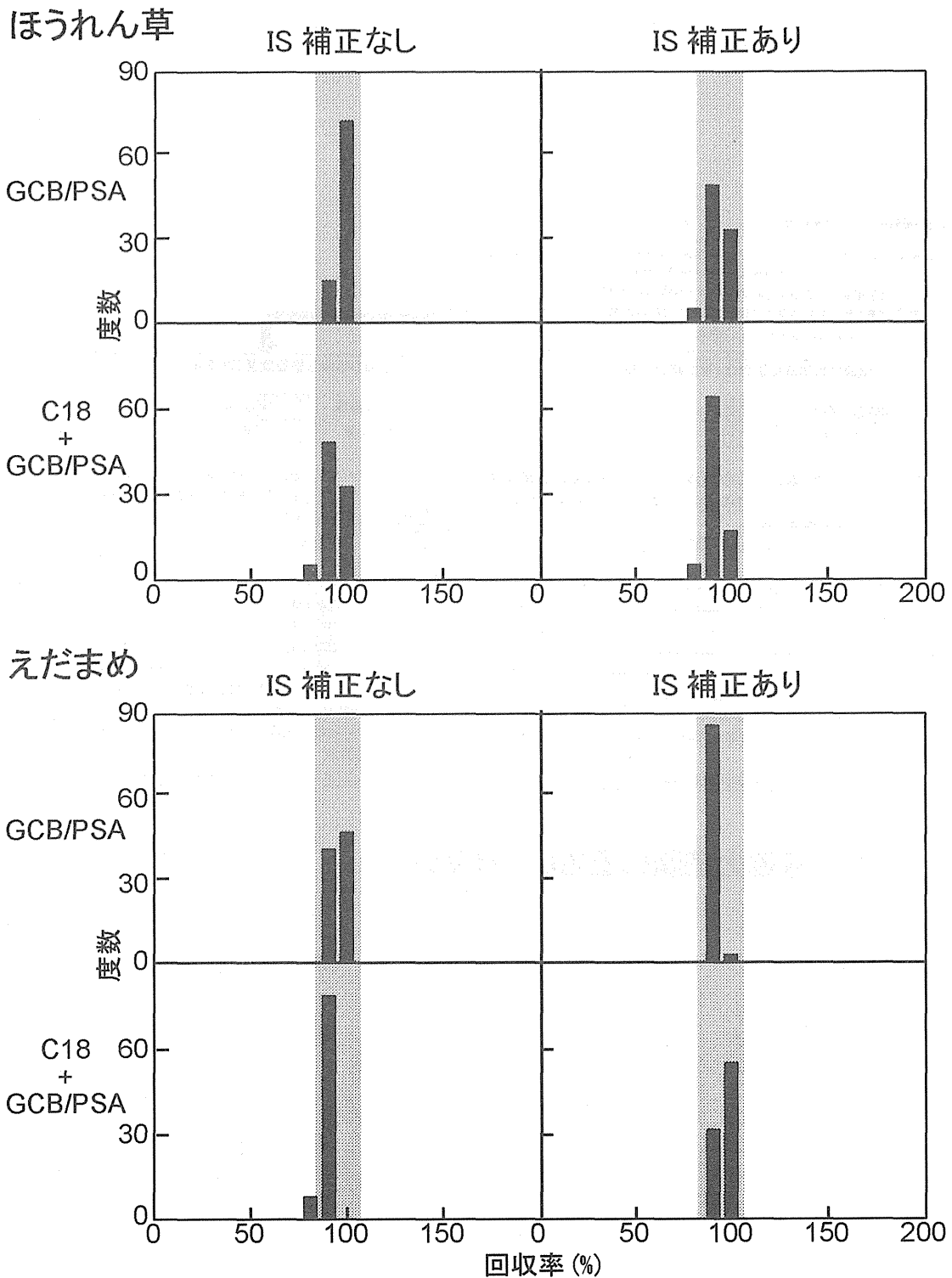


図 10 事前検討（大阪府）検量線 A の定量結果

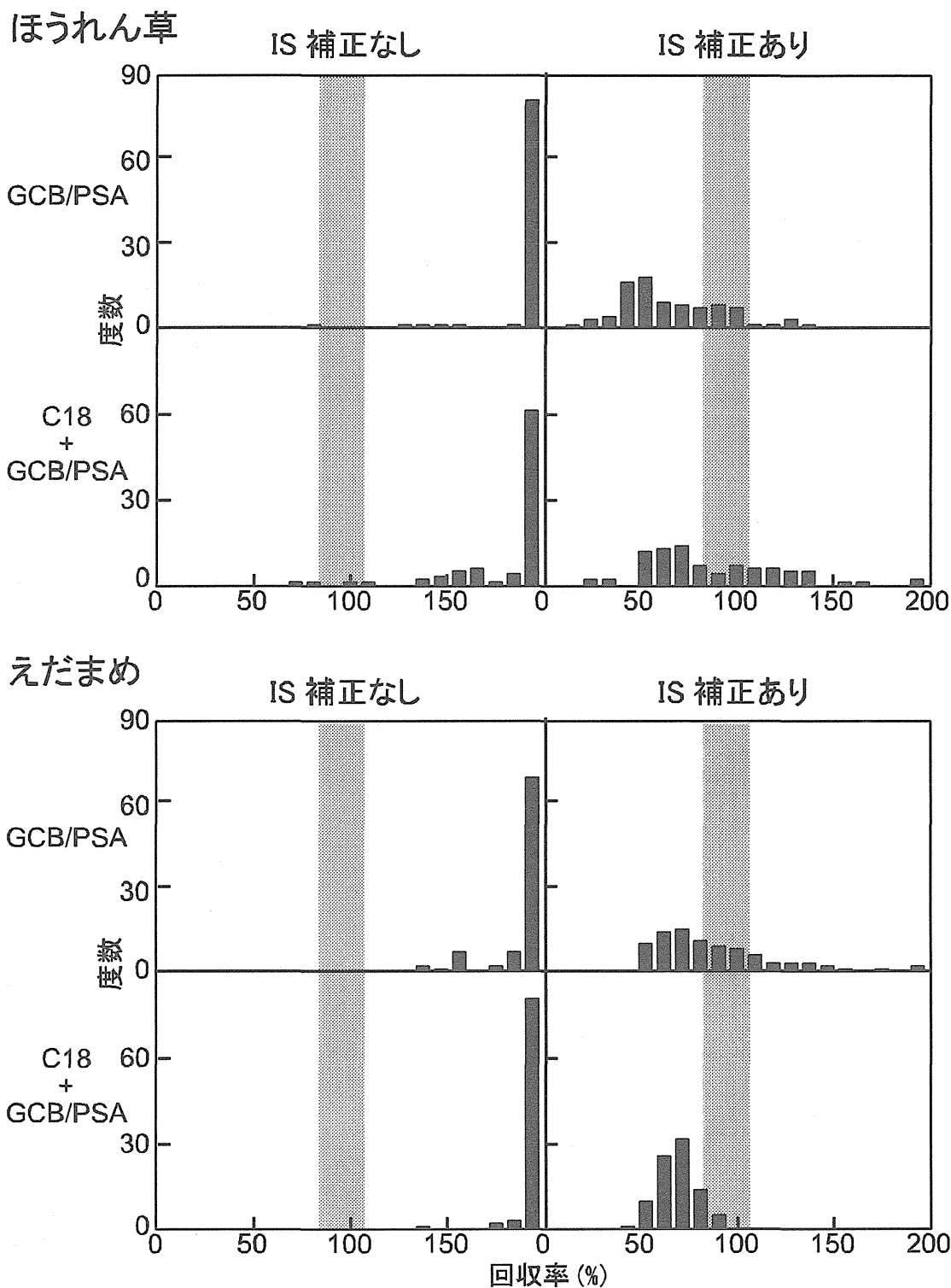
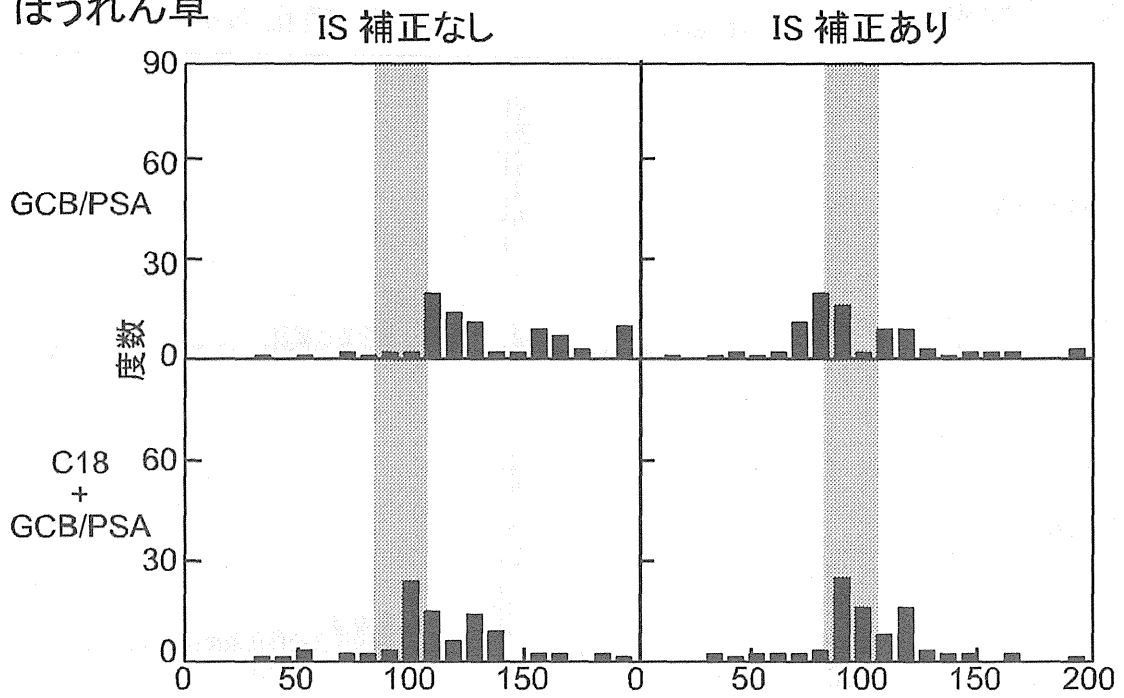


図 11 事前検討（大阪府）検量線 B の定量結果

ほうれん草



えだまめ

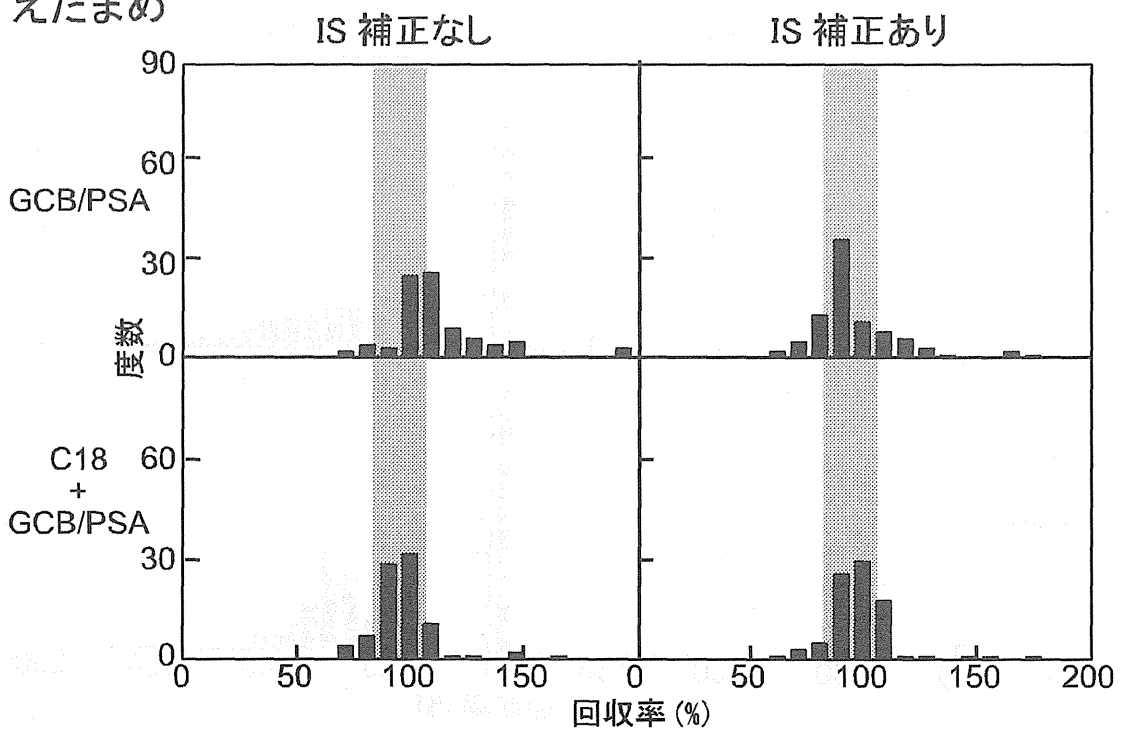


図 12 事前検討 (大阪府) 検量線 C の定量結果

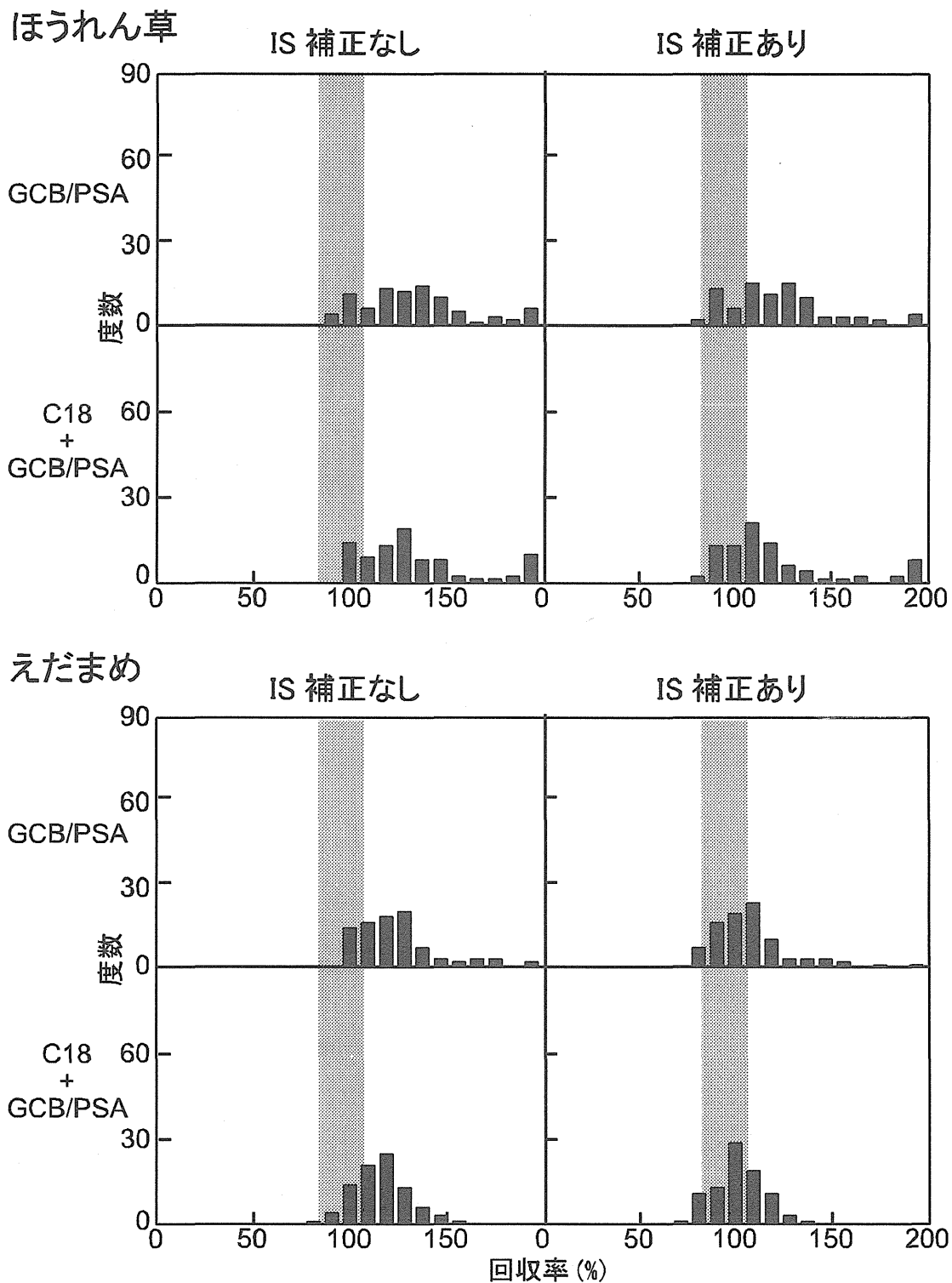
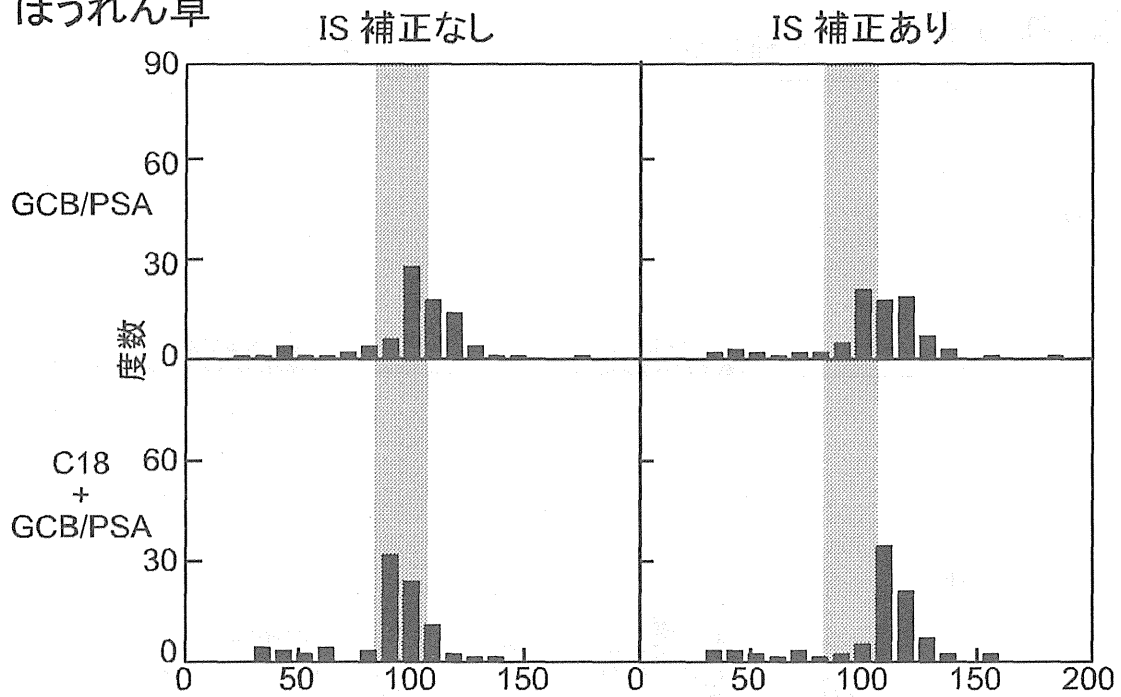


図 13 事前検討（大阪府）検量線 D の定量結果

ほうれん草



えだまめ

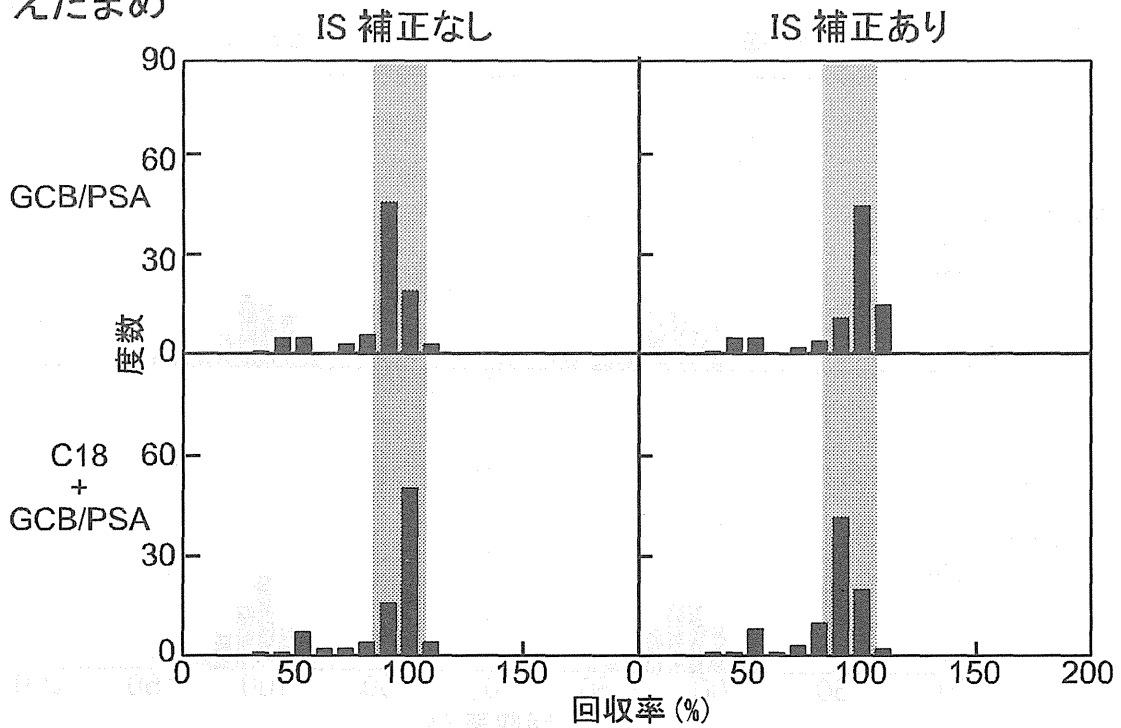


図 14 事前検討 (大阪府) 検量線 E の定量結果



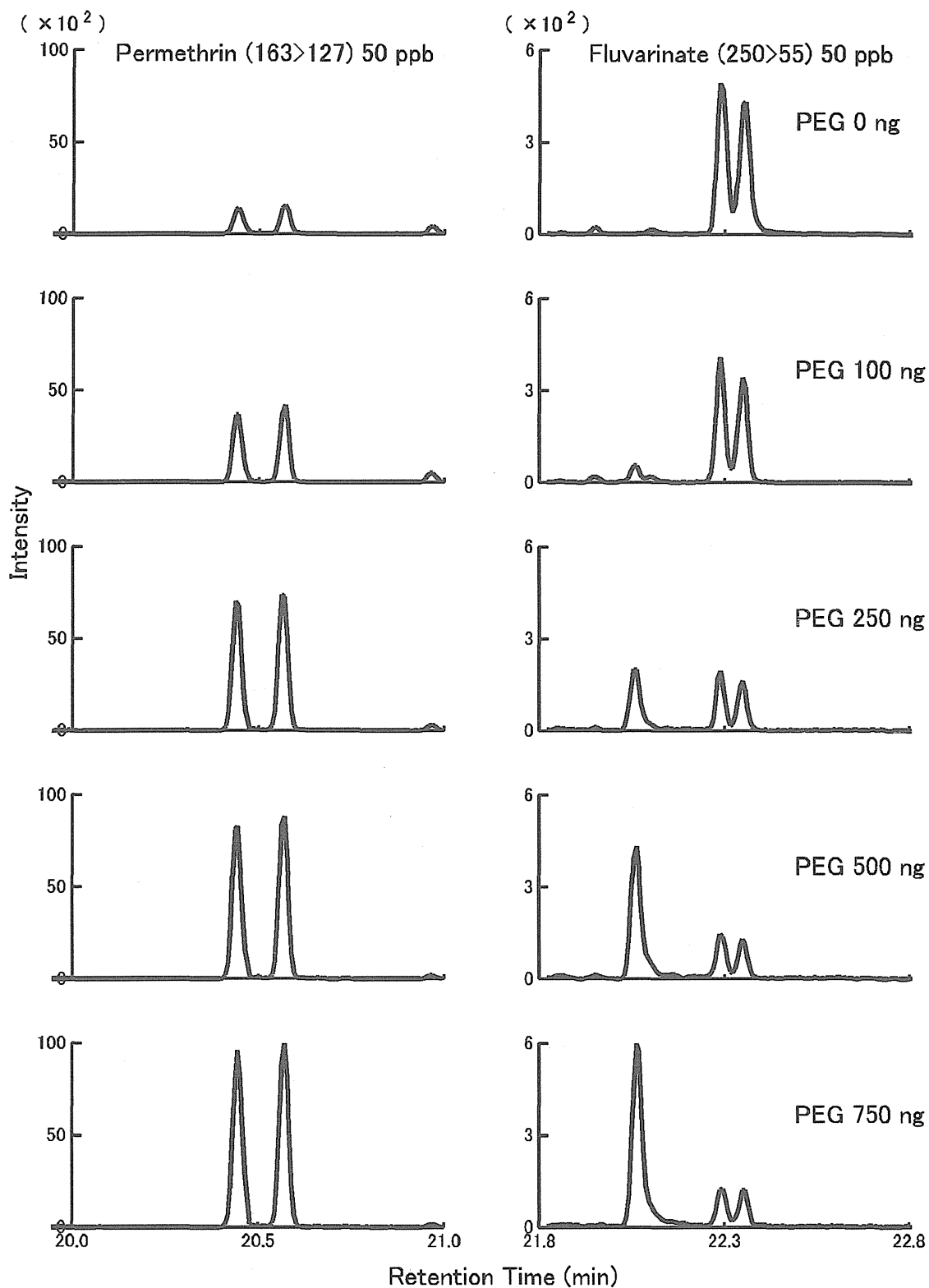


図 15 PEG 濃度とピーク強度の関連性

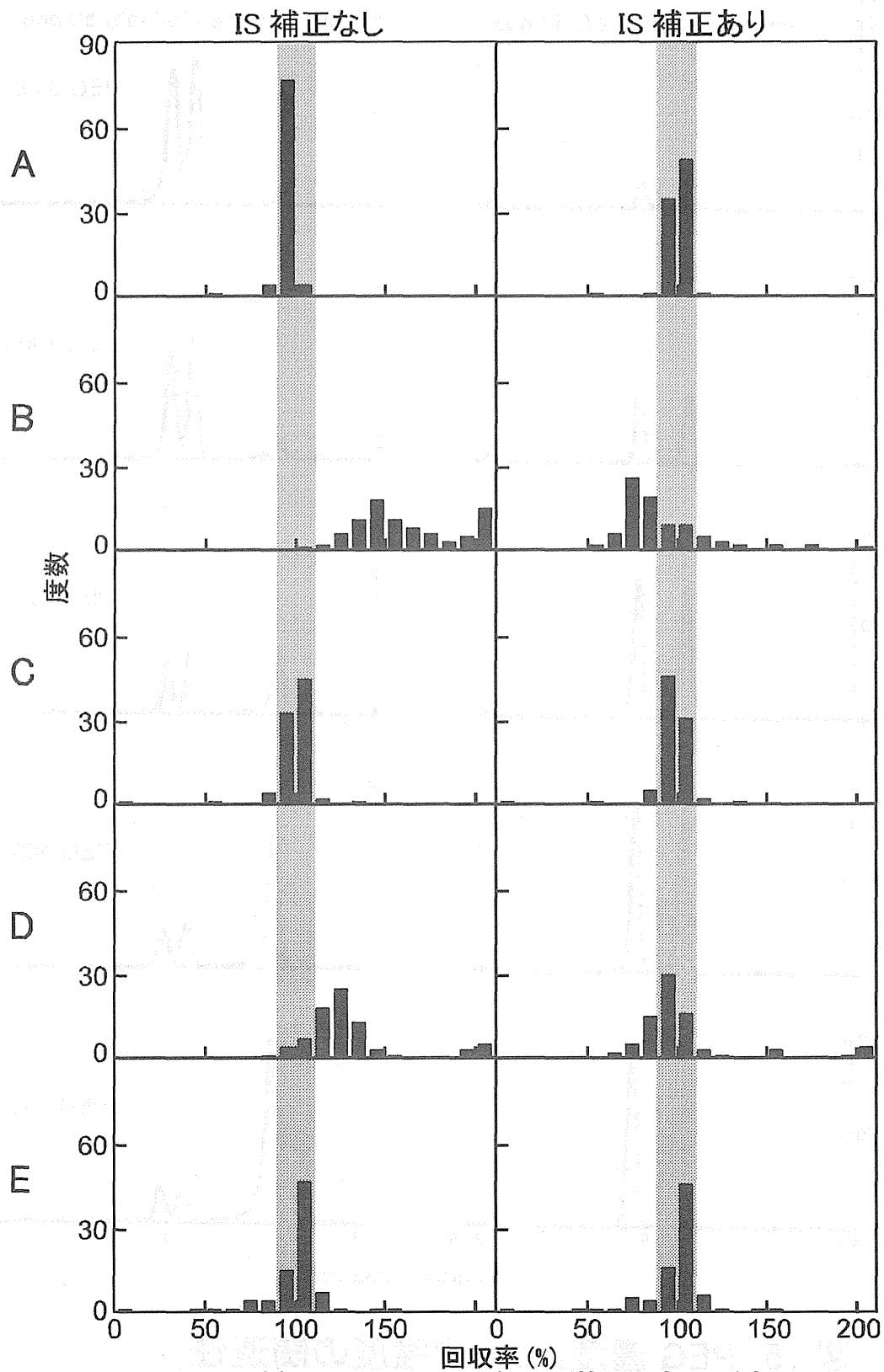


図 16 機関 a のほうれん草の定量結果

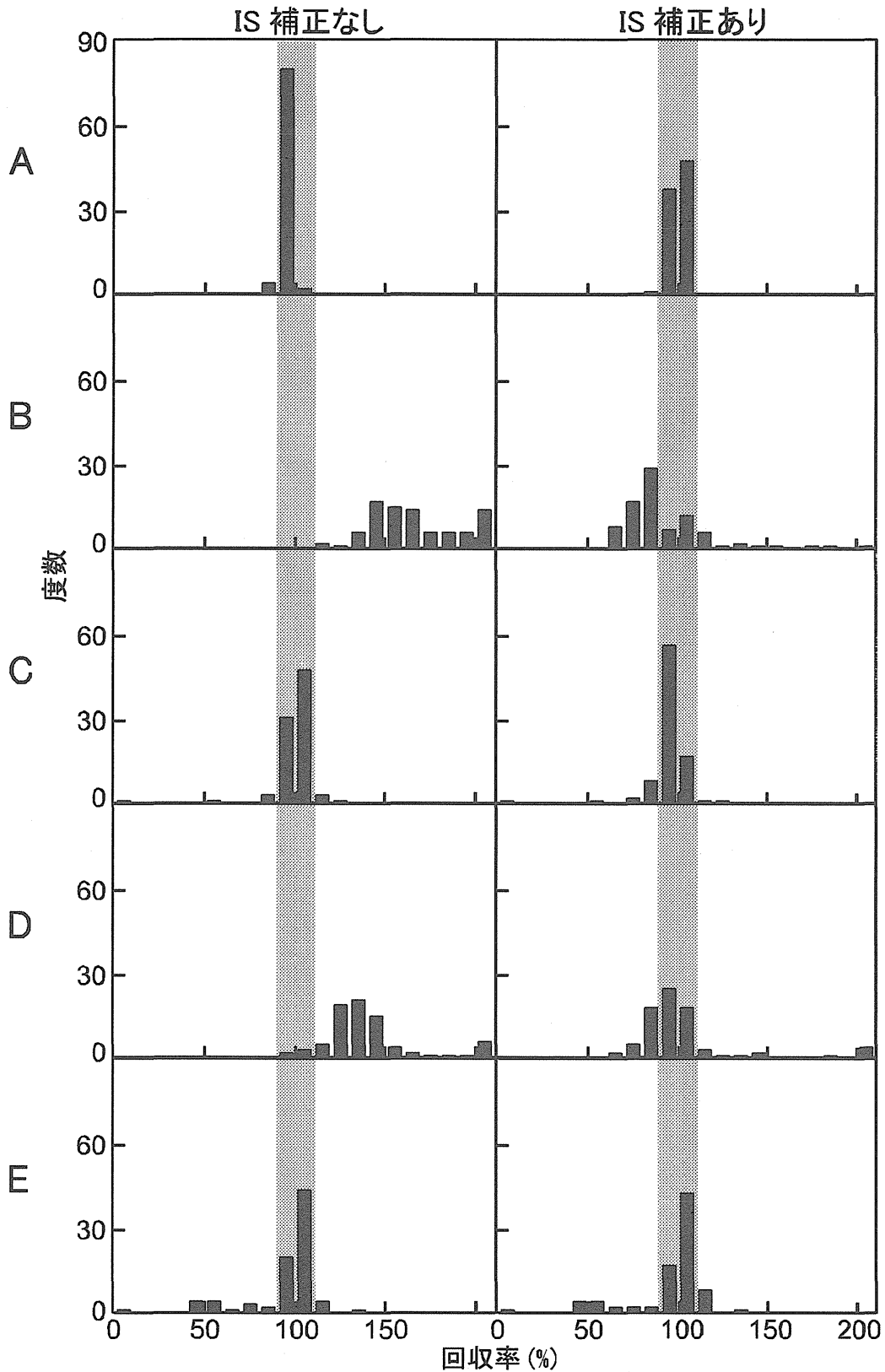


図 17 機関 a のえだまめの定量結果

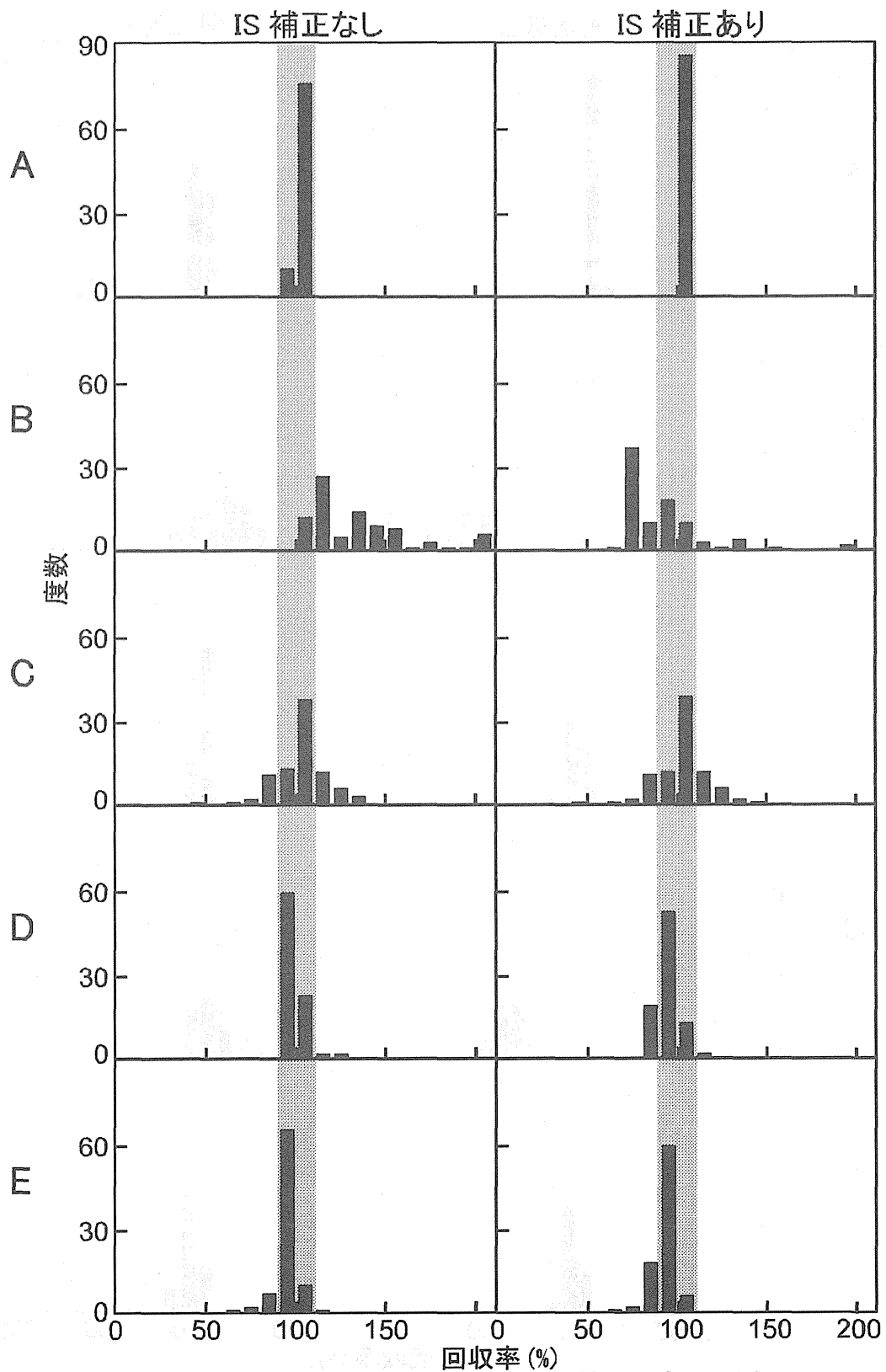


図 18 機関 b のほうれん草の定量結果

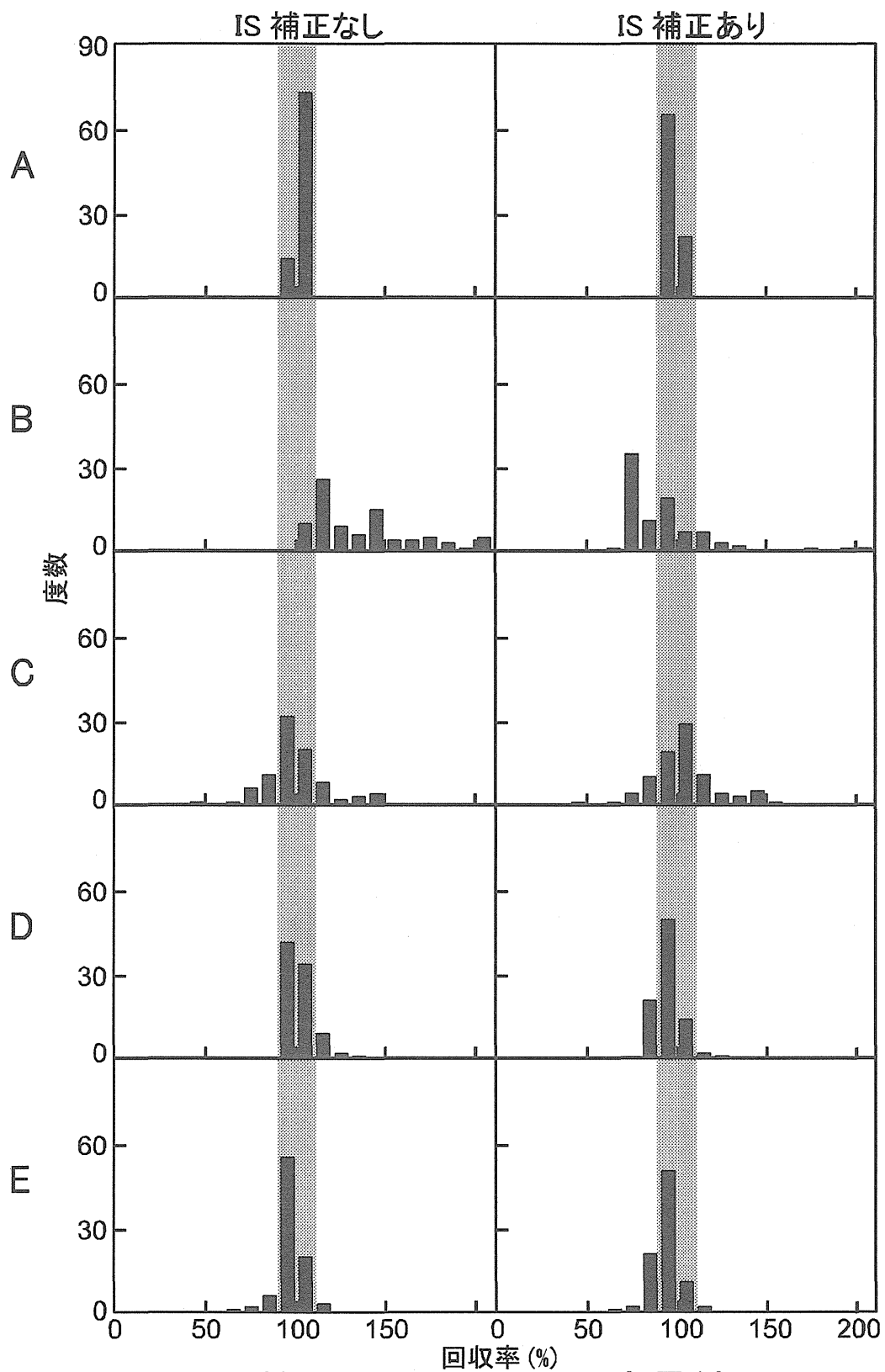


図 19 機関 b のえだまめの定量結果

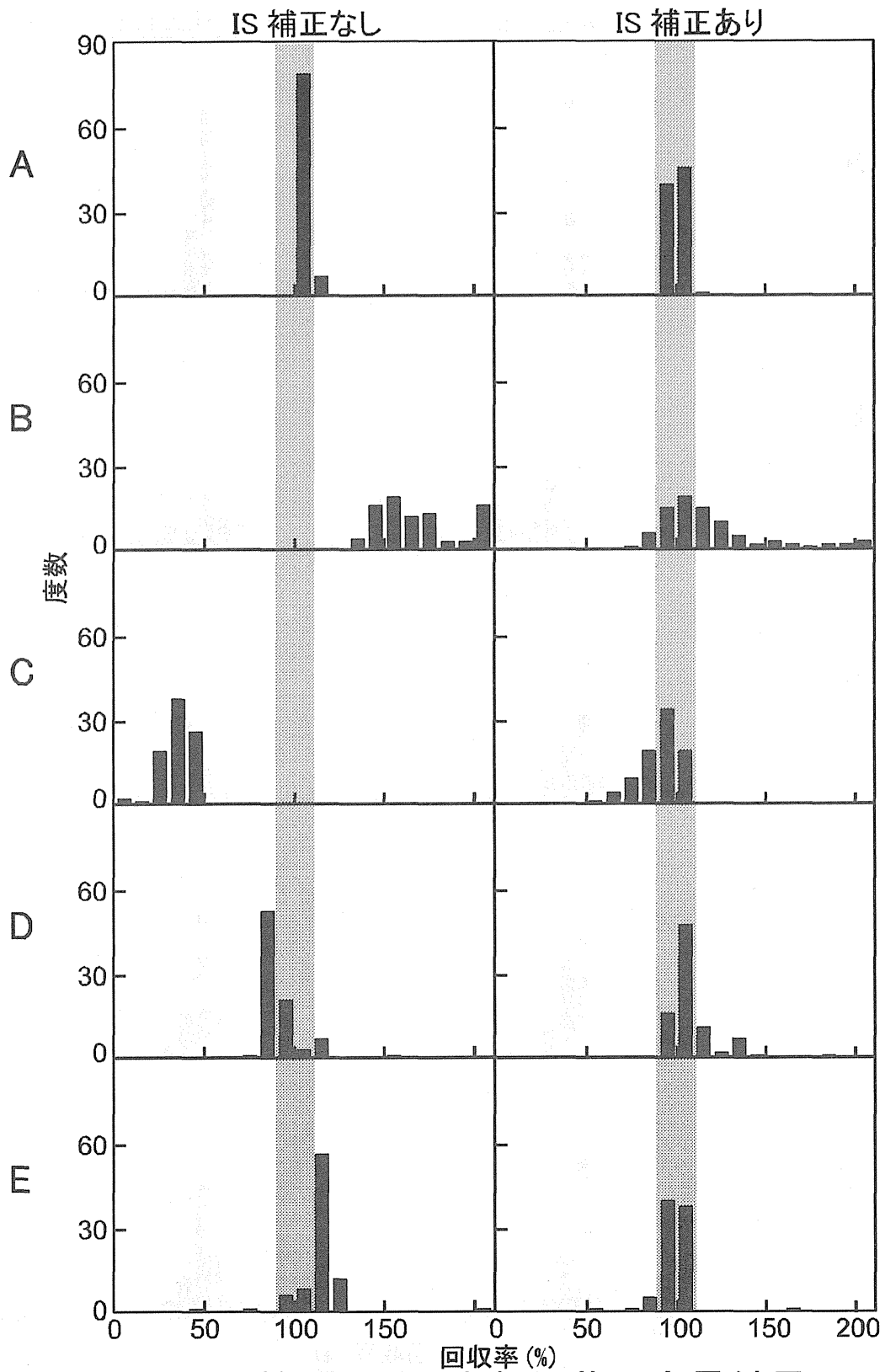


図 20 機関 c のほうれん草の定量結果

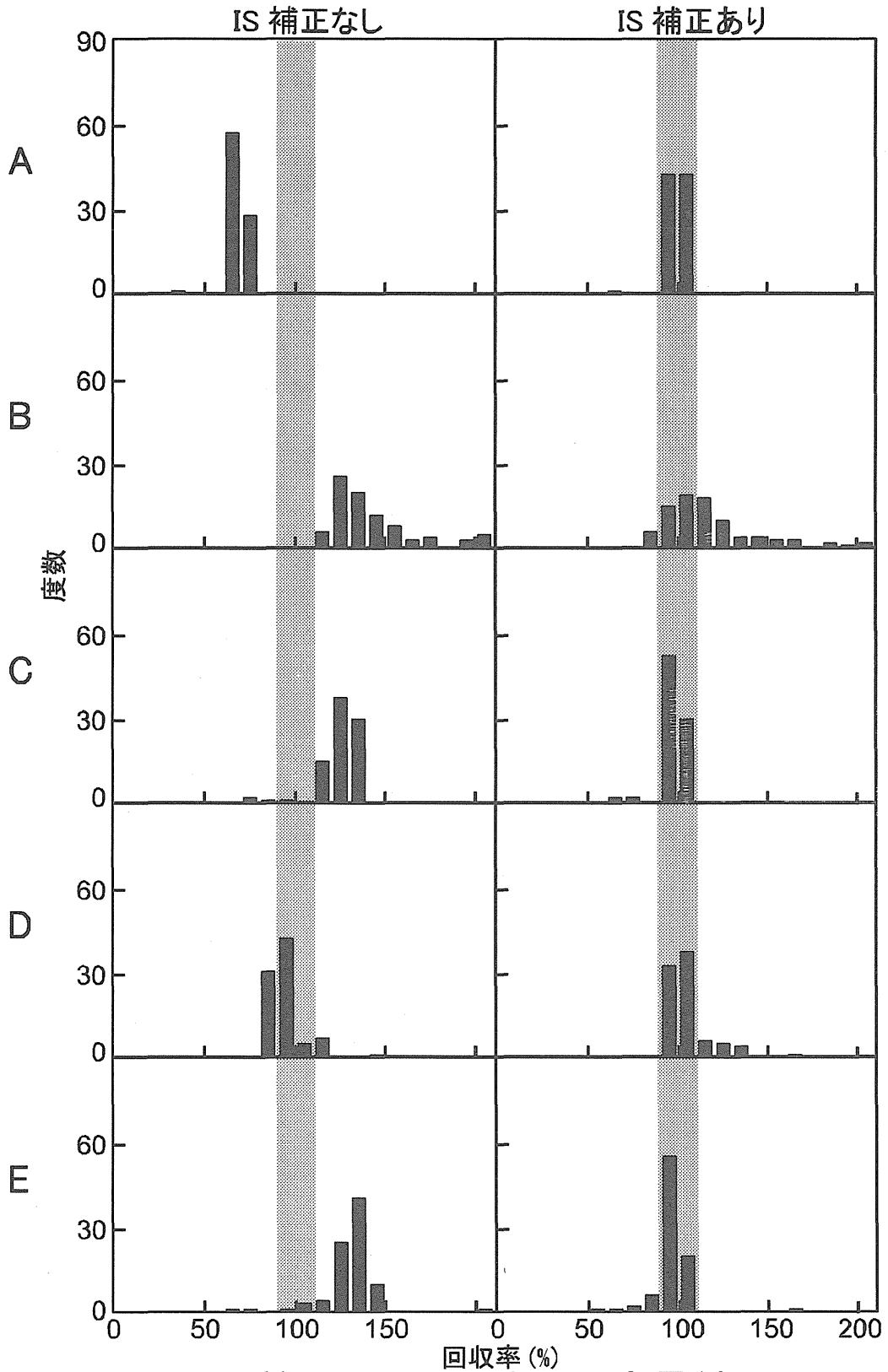


図 21 機関 c のえだまめの定量結果





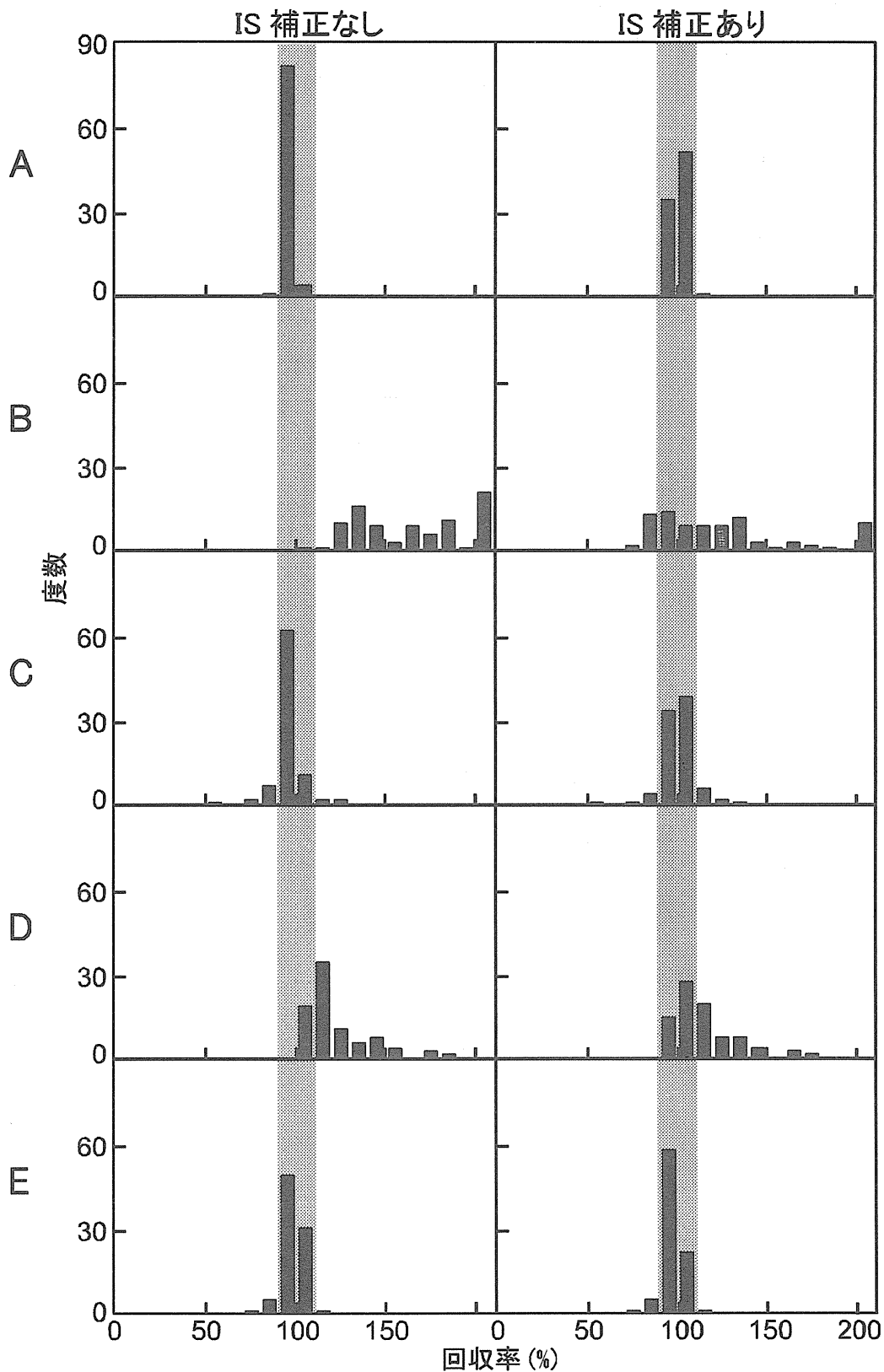


図 23 機関 d のえだまめの定量結果

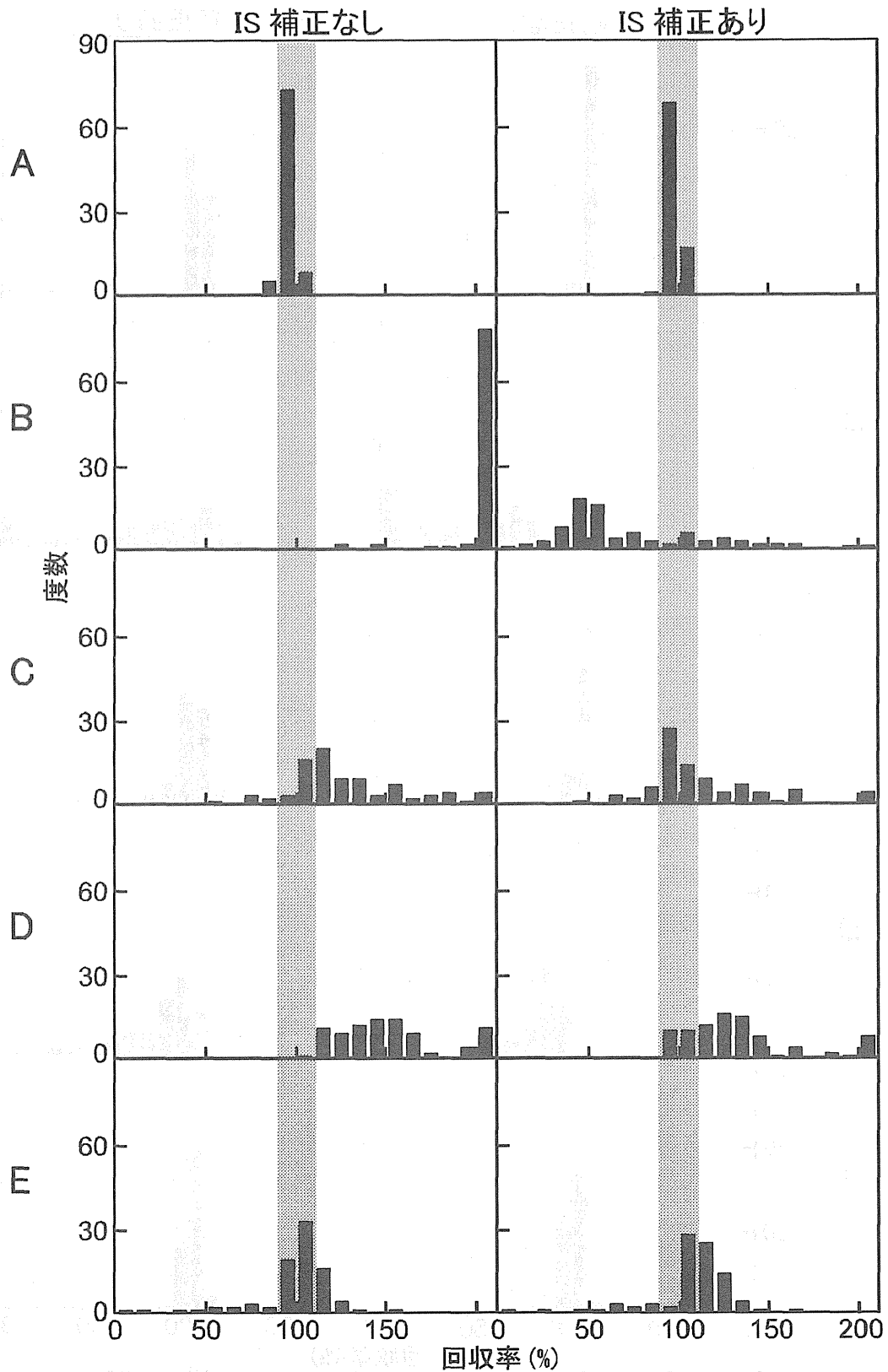


図 24 機関 e のほうれん草の定量結果

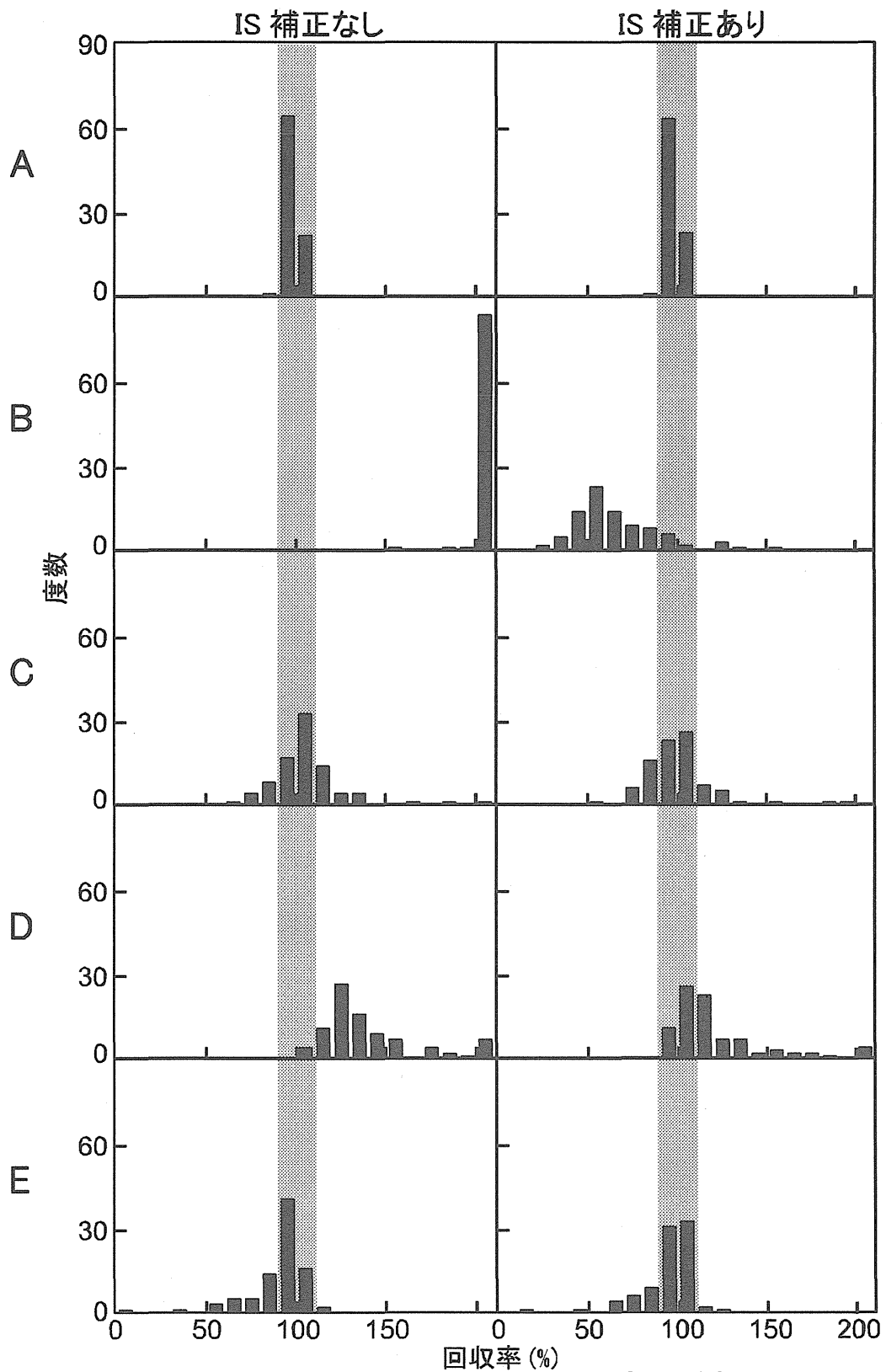


図 25 機関 e のえだまめの定量結果

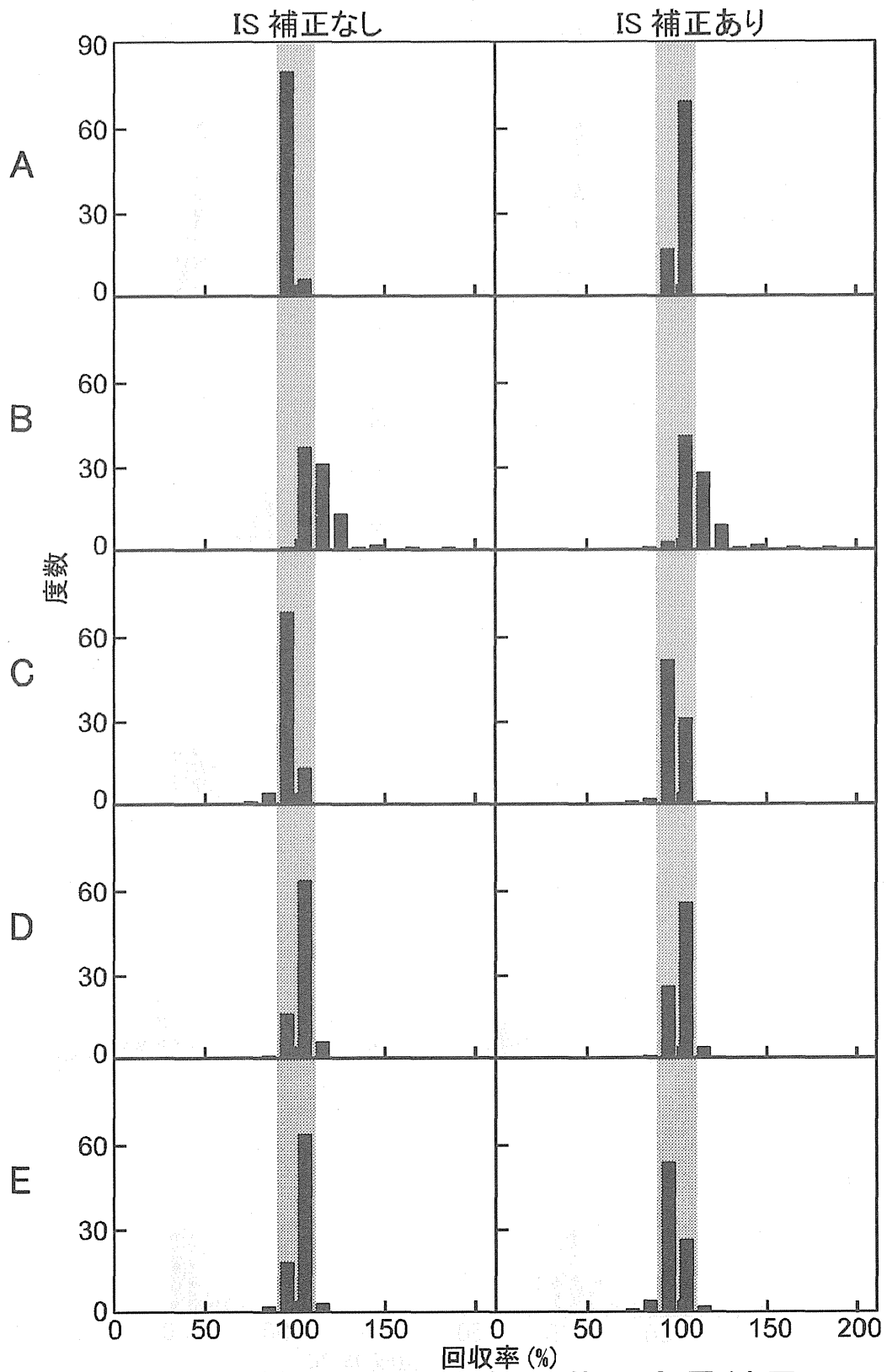


図 26 機関 f のほうれん草の定量結果